

春 告 草

第 142 号 令和元年 5 月 24 日 進路指導部発行

いきたい学部・学科はいつ決まる？いつ決める？

皆さんは卒業後の進路をどのように考えているだろうか。そしてその先の人生をどのように設計していくのだろうか。表 1 は卒業生の進路状況だが、その多くが現役で大学に進学していく。大学入学者の半数が浪人生で、「一浪」と書いて「ひとなみ」と読んだ時期もあったが、今では受験人口の減少もあり、現役進学率は高くなってきた。

大学へ行くのが当たり前の時代になったが、中には大学へ進学する意義も考えないまま進学し、入学後不適応を起こし、退学・再受験する人も少なからずいると聞く。幸いなことに本校では卒業までにステージ論文を 3 本書き上げることになっているので、論文を作成する過程で、大学進学の意味や学びたい分野などを見つける人は多いことと思う。今回は、進路決定、進路選択の時期について考えてみよう。

表 1 卒業生の進路状況

進路区分	4期生			3期生			2期生			1期生		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒業生総数	84	74	158	67	82	149	70	82	152	84	68	152
大 学	65	63	128	56	74	130	52	73	125	60	60	120
短 大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専修学校	0	0	0	1	1	2	0	2	2	1	1	2
就 職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0
計	65	63	128	57	77	134	52	76	128	61	61	122
進学準備	19	11	30	10	5	15	18	6	24	23	7	30
進路決定率	77%	85%	81%	85%	94%	90%	74%	93%	84%	73%	90%	80%

理工学系統への志望は早期に固まる 成長と共に社会科学系統分野への関心が高まる傾向

表 2 はスタディサポートの学習状況調査の結果で、「進みたい分野」について、学年別に各分野の割合(%)を示したものだ。現在の学年にそれぞれ進級する直前の調査であり、4 年生については 3 年時に行った調査結果であるから、「大学には行きたいが、進路は未定である」が多いのも、ある意味当然の結果である。5 年生、6 年生の調査結果を隣に並べたが、同じ集団の時系列データではないので、推移についてはみないでおこう。ただし、4 年時には定まっていなかった進路目標が、学年進行に従って少しずつ明確化されていく傾向が確認できるだろう。

図 1 のグラフは、1 期生から 4 期生までの卒業生について同様の調査結果を集計しグラフ化したものである。これを見ても学年進行に従って、進路未定が減っていく様子が分かるだろう。理工系志望者の割合は変化が少なく、早い時期に理系志望を固め、初志貫徹する傾向が強い。

表 2 興味のある学部系統

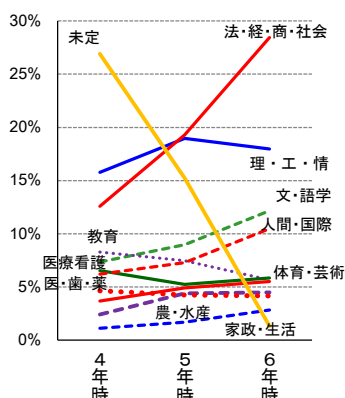
分 野	4年	5年	6年
理・工・情報系	17.8%	22.0%	31.9%
医・歯・薬系	7.6%	4.3%	3.5%
農・水産・獣医畜産系	7.0%	4.3%	5.0%
文・語学系	8.9%	4.3%	15.6%
教育系	3.8%	5.7%	4.3%
法・経済・商・社会系	17.2%	27.7%	19.1%
体育・芸術系	3.2%	2.8%	3.5%
医療看護・福祉系	3.8%	6.4%	2.1%
人間・国際・総合などの学際系	8.3%	8.5%	12.1%
家政・生活科学系	0.0%	0.7%	0.7%
進学希望だが内容は未定	17.8%	11.3%	0.7%
就職	0.6%	0.0%	0.0%
その他	3.8%	1.4%	0.7%
未記入	0.0%	0.7%	0.7%

一方、法・経済・商・社会系統の増加割合は顕著である。これは社会科学系統の学部を設置している大学が多いことに加え、成長と共にこういった分野への興味、関心が高まり、未定だった人の多くが法学・経済学系統へと進路希望を絞り込んでいく傾向が強いことによるものだろう。

後期課程で取り組むステージ論文作成も、それぞれの進路選択における貴重な資料、経験となるだろう。視野を広げ、いろいろな可能性を考えながら、各自の進路設計を組み立てていって欲しい。

本校では5年生3学期までには志望大学・学部を絞り込めるよう指導し、6年生進級前には「第一志望校宣言」を提出させている。

図1 進路希望推移(卒業生集計)



卒業生の 受験体験談を聞こう

三鷹高校時代よりこの時期の恒例行事となっている「在卒懇」が明日の午後、6年生各教室などで行われます。今年、大学に入学した4期生を招いて、受験体験談を聞くという企画です。どのように受験期を乗り切ったのか、どのように進路を絞り込んでいったのかなどについて、直接先輩方のお話が聞けるチャンスです。6年生を対象にした行事で、既に希望も取っていますが、4年生、5年生の参加も歓迎します。会場に余裕のあるところもありますので、積極的に参加してみてください。苦手科目の克服法なども聞くことができますと思いますよ。

表3 在卒懇 学部系統別一覧

系 統	大 学	学 部	学 科	参加人数
【A】人文 外国語 国際 教養	明治大学	文学部	日本史学科	45
	早稲田大学	文化構想学部	文化構想学科	
	東京外国語大学	国際社会学部	イベリア・ラテン学科	
	東京大学	文科三類		
【B】法律 政治 社会学	上智大学	法学部	法律学科	18
	中央大学	法学部	法律学科	
	横浜国立大学	都市科学部	都市社会共生学科	
	慶應義塾大学	環境情報学部	総合政策学科	
【C】経済 経営 商学	明治大学	商学部	商学科	12
	横浜国立大学	経済学部	経済学科	
	一橋大学	経済学部	経済学科	
	慶應義塾大学	商学部	商学科	
【D】教育 体育 芸術 家政	東京学芸大学	教育	国際教育学科	12 (1)
	東京家政大学	家政学部	栄養学科	
	武蔵野美術大学	造形構想学部	映像学科	
	東京学芸大学	教育	初等教育学科	
【E】理学 工学	電気通信大学	情報理工学域		40
	東京大学	理科一類		
	首都大学東京	都市環境学部	都市基盤環境学科	
	東京工業大学	物質理工学院		
	東京大学	理科一類		
【F】生物 農学 看護 薬学 医学	東京医科歯科大	医学部	看護学科	21
	東京農工大学	農学部		
	首都大学東京	理学部	生命科学学科	
	自治医科大学	医学部	医学科	

東京農工大GIYSEプログラム受講生募集

Global Innovation program for Young Scientists and Engineers

東京農工大学では下記の要領で受講生を募集している。募集対象は高校1年生、中等教育学校4年生で、受講期間は来年の2月までとなっているが、高2生、中等5年生の応募も可としている。

将来、科学の専門分野で国境を越えて活躍する研究者、技術者を目指す高校生のためのプログラムで、大学の研究、教育内容を先取りして経験できるとしている。募集の概要は以下のとおりである。詳細は、各自でダウンロードして調べるように。

開催日程: 2019年8月～2020年2月

募集人員: 40名

会 場: 東京農工大学府中キャンパスおよび小金井キャンパス

応募資格: 高校1年生、中等教育学校4年生

応募書類: 申込書、応募課題、推薦書

応募締切: 2019年5月31日

問い合わせ: <http://web.tuat.ac.jp/~giyse/>



大学入試の基礎知識(第5回)

私立大[一般入試]受験について

私大入試は1月下旬から始まり、国公立大前期試験が行われる2月下旬にかけ実施されます。学部・学科単位で試験が行われ、一人で何校でも受験することができます。「複線入試」といって、複数の選抜方式がありますので、志望大・学部にも2度、3度と受験できるメリットがあります。私大入試の概要を見ていきましょう。

様々な入試方式

■**一般方式** 募集単位ごとに行われる最も標準的な方式です。他の方式に比べて募集人員も多く、第一志望はこの方式で受験することになります。試験科目は3教科型が多いですが、2教科型も増加しています。文系は英語、国語必須に地歴・公民、数学から1科目選択が主流。地歴・公民は受験科目を選択しますが、世界史、日本史からの選択が多くなっています。理系は英語、数学、理科の3教科受験が多く、数学は数Ⅲの有無、理科は科目数や選択科目がチェックポイントとなります。

■**センター利用方式** センター試験の得点を合否判定に利用する選抜方式です。国公立大志望者が私大を併願する場合、その大学の過去問対策をする必要がないので、この方式を利用するメリットは大きい。一般方式に比べて難易度は高くなる傾向があり、早稲田なら90%以上、MARCHなら80%後半の得点率が必要になります。一般方式同様、文系なら英語、国語、地歴公民 or 数学、理系なら英語、数学、理科の3教科型が主流。4教科型、5教科型も行われていますが、科目数が多いほど倍率は低くなる傾向です。

■**全学部方式** 一般方式は募集単位ごとに異なる問題を使って、異なる日程で試験が行われます。これに対し全学部方式では、全学部や複数の学部・学科が共通の問題で、同じ日に一斉に試験を行いますので、1回の受験で複数の学部にも併願することができます。学部ごとの試験とは別の日程で行われるので、同じ学部・学科を二度受験することが可能になるほか、併願校との日程重複も回避しやすくなるメリットがあります。

■**外部検定利用方式** 一般方式の英語試験の代わりに、英検、TEAPなどの外部検定を利用する方式です。大学・学部などが指定する基準をクリアすれば、出願して英語の受験が免除されたり、英語を満点(級・スコアに応じた得点)に換算したり、英語の得点に加算したりと、利用方法は大学により様々です。

以上、全方式とも国公立大に比べて受験科目は少ないのですが、その分教科バランスは重要となってきます。

受験費用

受験料は1つの受験につき3万5千円程度。一人で何校でも受験できると書きましたが、受験費用も考慮して受験プランを立てなければいけません。

■**併願割引** 同じ大学で併願すると受験料が割引になる場合があります。例えば、同じ入試方式で同じ(異なる)学科を併願したり、異なる入試方式との組み合わせで同じ(異なる)学科を併願すると、2回目の受験料が1回目より安くなります。この制度をうまく利用すれば、受験料を節約することができますね。

■**経済的支援** 「入学前予約型奨学金制度」のことを前号で説明しましたが、入試で優秀な成績を収めた者は「特待生」や「給費生」として、学費を免除(減免)されたり、返還不要な一定の金額を支給してもらえる大学もあります。入学後も学業成績が良ければ、同様の特典が用意されていることもあります。志望校でこうした制度が導入されているかをチェックしてみたいかがでしょう。



大学入試の成績優秀者に給付する奨学金の例

●専修大

- ・スカラシップ入学試験
- ・入学試験の成績で判定
- ・4年間の授業料・施設費を免除(返還義務はない)

●明治大学特別給費奨学金

- ・入学を強く希望し入学試験の成績が特に優秀な者に給付
- ・「一般選抜入学試験」、「全学部統一入学試験」および「大学入試センター試験利用入学試験」の合格者から採用。採用人数は非公表
- ・実施学部は法、文、理工、情報コミュニケーションの各学部
- ・学費のうち授業料相当額を給付
- ・給付期間は学部4年間
- ・入学試験成績優秀者から順に採用していく制度であり、申請は不要

新テストの基礎知識（第4回）

英語外部試験と新テスト記述問題 各国公立大の対応は？

■外部試験活用方針は4パターン 都立大は個別英語試験を廃止

- ①出願資格 多くの大学ではCEFR対照表でA2レベル以上としている。東大、一橋、京大、名古屋大などは、認定試験の成績提出は必須ではなく、調査書等、高等学校による証明書などで代替できるとしている。
- ②加点 具体的な方法や基準は明確に発表していない大学が多い。その中で東工大は出願要件だけでなく、個別試験英語に利用すると発表した（配点は大学独自試験120点、外部試験30点）。
- ③みなし得点 広島大は「所定の全条件を満たした場合、共通テストの英語を満点とみなす」としている。神戸市外語大は「外部試験を独自の換算方法で得点化し、共通テストと外部試験を比較し、高得点を利用」する。
- ④個別試験の代替 首都大(来年度より東京都立大と大学名変更の予定)は、外部試験を点数化し、これを個別試験の成績に組み入れる。これに伴い大学独自の外国語試験は廃止するという思い切った方針である。

■記述式問題の活用

共通テスト国語の記述式問題はA～Eの5段階で評価され、マーク式問題(200点満点)と分けて、各大学へ成績が提供される。これを点数化しマーク式問題に加点する大学が多いが、換算の仕方や記述式問題とマーク式問題の配点比について具体的な記述をしているところはまだ少ない。東北大は「点数化して合否判定に用いることはないが、合否ラインでは記述式の成績評価が高い方を優先する」と公表している。

数学の記述式問題は、マーク式問題と合わせて採点(100点満点)されるため、ほとんどの大学で、マーク式問題と同様に扱うとしている。

■調査書を点数化

調査書や志願者本人が記載する資料の活用も、21年入試の大きな改革ポイントである。

筑波大の基本方針は点数化で、前期で新規に導入する総合選抜の他、前期、後期の一般選抜でも点数化する学類が多い。信州大は、面接等を実施しない入試では点数化し、選考に利用するとしている。東北大は、志願票に調査書と対応した5項目程度のチェック項目を設け、志願者自身が該当する項目にチェックする自己申告方式をとる。チェックの根拠は調査書で確認するが、合否ラインで志願者が同点で並んだ場合に、チェックリストによる主体性評価が高い志願者を優先的に合格とする。

■各大学の動向など

大学名	学部等	英語外部試験	国語 記述問題	数学 記述問題	その他
東京大	全学	出願要件 ①A2レベル以上 ②上記の英語力があることが明記された高校による証明書 ③上記のいずれも提出できない理由書	利用する	利用する	
一橋大	全学	出願要件 ①A2レベル以上 ②上記の英語力があることが明記された高校による証明書 ③上記のいずれも提出できない理由書	点数化し加点する マーク式200点＋記述式50点の合計250点を200点に換算	マークシート式と同様に扱う	合否ラインで志願者が同点で並んだ場合、調査書を判断材料に活用。調査書の内容を質的観点から点数化して評価、総合点の高いものを優先。
東京工業大	全学	出願要件でA2レベル以上 前期個別試験英語に外部試験の結果を利用(筆記試験120点、外部試験30点)	点数化して加点する	利用する	生命理工学院は後期募集を廃止
東京外国語大	全学	出願要件でA2レベル以上	未公表	未公表	前期試験は全学部で英語スピーキングテストを導入
東京農工大	全学	出願要件 ①A2レベル以上 ②上記を証明できない理由書の提出 ※上記は出願受理後の合否判定には利用しない	点数化して加点する	マークシート式と同様に扱う	
首都大学東京 東京都立大 (大学名変更)	全学	第2次選抜のみで点数化して加点する。	利用する	利用する	2次外国語の試験は廃止 法は後期募集を実施 学校推薦型選抜・総合型選抜・特別選抜による募集人員を、入学定員の30%に拡充